

平成18年度における食品健康影響評価技術研究の公募について

食品安全委員会では、科学を基本とする食品健康影響評価(リスク評価)の推進のため、平成17年度より、リスク評価ガイドライン、評価基準の開発に関する提案公募型の「食品健康影響評価技術研究」を実施しております。

つきましては、平成18年1月13日(金)から2月13日(月)まで、下記のとおり研究課題の募集を行うことと致しましたので、お知らせいたします。

なお、この公募は、平成18年度予算が成立した後に正式に確定するものですが、できるだけ早く委託研究を実施するために事前に公募を行うこととしているものです。このため、今後、変更等があり得ることをあらかじめご承知おき下さい。

記

1. 研究領域

別紙、「平成18年度における食品健康影響評価技術研究の研究領域について」のとおり。

2. 応募資格及び応募方法

別添「食品健康影響評価技術研究応募要領」(平成18年1月食品安全委員会事務局長決定)のとおり。

応募要領等につきましては、食品安全委員会のホームページからダウンロードすることができます。

3. 募集期間

平成18年1月13日(金)から2月13日(月)(必着)まで

4. 研究課題の決定時期

4月上旬予定

5. 応募の際の留意事項

(1) 食品健康影響評価技術研究は、食品健康影響評価(リスク評価)の推進のための研究事業です。平成17年度に応募された研究課題の中には、公募している研究領域の主旨に沿わないもの(リスク管理に関する研究等)が見受けられましたが、これらは採択の対象となりませんのでご注意ください。参考資料として、平成17年度に採択された研究課題の一覧表を添付します。

(2) 応募資料の作成に際しては、所定の様式を用いて下さい。また、様式の改変は認めません。記入する際は、記載例を参考とし、指定された文字数等を厳守願います。なお、研究実施計画書様式5及び様式6により、発表論文リストを添付する場合は、主要なものを選定して下さい。

(3) 研究費については、可能な限り詳細かつ具体的な積算をお願いします。なお、単年度あたりの研究費について、応募要領では1研究課題につき4千万円が限度とされており、ただし、平成17年度に採択された課題は、1研究課題につき350万円から2千万円の実績となっております。

平成18年1月13日

平成18年度における食品健康影響評価技術研究の研究領域について

平成18年1月12日に開催された食品安全委員会第126回会合において、以下の5研究領域が決定されましたのでお知らせします。

化学物質系研究領域

化学物質の定量的毒性評価法に関する研究領域

食品中の単独あるいは同時に複数の化学物質による暴露に対する定量的な健康影響評価に資する研究を募集する。

(留意事項) MOE (Margin of Exposure) 等の新たな指標も含め精密な暴露評価手法等の開発に資するものであること。または、乳幼児及び高齢者等のリスク高感受性グループへの健康影響の評価手法等の開発に資するものであること。

生物系研究領域

食品に起因するv C J Dのリスク評価のための効果的 B S E サーベイランス手法の開発に関する研究領域

食品に起因するv C J Dのリスク評価に資する効果的な B S E サーベイランス手法の開発に資する研究を募集する。

(留意事項) 疫学的・統計学的に、B S E を最も効率よく摘発するサーベイランス手法や B S E の感染数から v C J D の発生数を予測する手法等の開発に資するものであること。

食品に起因する病原微生物のリスク評価法に関する研究領域

食品に起因する病原微生物の効率的・効果的な健康影響評価に資する研究を募集する。

(留意事項) ノロウイルス、肝炎ウイルス、カンピロバクター、リステリア菌等、食品に起因する病原微生物による健康影響を効率的・効果的に評価する手法の開発に資するものであること。

新食品等研究領域

健康食品等の安全性評価法に関する研究領域

健康食品等の健康影響評価に資する研究を募集する。

（留意事項）新たに開発された食品素材及び従来の食品成分を濃縮する等により開発された食品素材の過剰摂取、長期摂取等による健康影響評価（乳幼児及び高齢者等のリスク高感受性グループの健康影響評価を含む）の評価指標の設定あるいは安全性評価法の開発に資する研究であること。

リスクコミュニケーション研究領域

リスクコミュニケーションの情報提示方法、言語表現等に関する研究領域

効率的かつ効果的なリスクコミュニケーションのための情報提示方法、言語表現等に資する研究を募集する。

（留意事項）リスクコミュニケーションを進める上で、使われる情報伝達メディアや表現方法によって、どのような意識変化及び行動変容が生じるか、また、関係者間において日本語等の表現がどのように認知されるか、等を明確にし、意見交換の実効性の観点から効果的かつ効率的なリスクコミュニケーションの実施に資するものであること。

参考資料

平成17年度食品健康影響評価技術研究の採択課題一覧

化学物質の発がんリスクの評価法に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
環境化学物質の発がん性・遺伝毒性に関する検索法の確立と閾値の検討	津田洋幸	名古屋市立大学

食品の容器包装・器具のリスク評価法に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
器具・容器包装に用いられる合成樹脂のリスク評価法に関する研究	広瀬明彦	国立医薬品食品衛生研究所

プリオンに起因するリスクの評価法に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
BSEにおける脊柱・筋肉内神経組織のリスク評価と経口摂取 シート蛋白の体内動態	小野寺 節	東京大学

微生物・ウイルスの定量的リスク評価及び薬剤耐性菌のリスク評価に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
多剤耐性サルモネラの食品を介した健康被害のリスク評価に関する研究	牧野壮一	帯広畜産大学

タンパク質等食品成分のアレルギー発現性の評価法に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
免疫細胞生物学的・構造生物学的手法を用いた食品成分のアレルギー発現性評価法の研究	八村敏志	東京大学

食品に関連するリスクの定量的評価法に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
定量的リスク評価に応用可能な手法の探索、分析及び開発に関する研究	春日文子	国立医薬品食品衛生研究所

食品安全分野のリスクコミュニケーションの手法等に関する研究領域

研究課題名	主任研究者氏名	所属組織
効果的な食品安全のリスクコミュニケーションのあり方に関する研究	関澤 純	徳島大学
食品災禍時のリスクコミュニケーションの実態調査(風評被害を含む)及び災禍の性格分類	今村知明	東京大学